

大船渡発

漁師が語り部に プロジェクト始動



大船渡市三陸町吉浜地区の若い漁師たちが、漁船の上で震災関連の「語り部」となる、『漁師語り部』のプロジェクトが始まりました。三陸鉄道とタッグを組んで語り部事業をスタートさせたのは、吉浜漁協青年部のメンバー、「よしはま元気組」です。きょうは奥州市のグループ8人が、震災関連の研修に訪れ漁船に乗り込みました。船上では「明治三陸大津波」



以降の吉浜地区の津波被害や、東日本大震災でこの地域が比較的被害が少なかった経緯などについて説明が行われました。主催する三陸鉄道では、被災地視察のプログラムとしてこの「漁師語り部」を広くPRしていく方針です。(5/30 ニュースエコー)

釜石発

仮設住宅にテーブル設置



県工業技術センターから、釜石市の仮設住宅に木製のテーブルとイスのセットが贈られました。センターが研

究を行っている曲げ木の技術が活かされたデザインです。県産のブナやクリの木で作られ、木の風合いを生かしたテーブルとイスの二組のセット。これは、県工業技術センターが設計し、遠野市の木工所が製作したものです。テーブルの足の部分には、技術センターが1年がかりで取り組んだ、曲げ木の技術が使われ、遊び心のあるデザインに仕上がっています。このテーブル囲んで。さっそく仮設住宅に住む人たちが集まってお茶をのみなながら話に花を咲かせていて、届いたテーブルが、憩いの場を演出していました。(5/31 ニュースエコー)

陸前高田発

一本松 枝葉の再取り付け終了



「元の形と違う」という指摘を受けて再設置作業が進められている、陸前高田市の、奇跡の一本松の枝葉の取り付け作業が完了しました。「奇跡の一本松」は去年から、保存に向けた修復作業が進められていて、今年3月に一度、設置が完了していました。しかし市民から「元の形と少し違うのではないか」という指摘があり、320個に及ぶレプリカパーツの角度を微調整して、再び取り付けが行われたものです。今月末には献花台の設置などの周辺工事が完了。来月上旬に完成式典が行われる予定です。(6/3 ニュースエコー)

陸前高田発

気仙川水門 安全祈願祭



津波防災の施設として陸前高田市の気仙川河口に新たに整備される水門の工事が始まり、現地で安全祈願祭が行わ

れました。気仙川の河口に検察される水門は国が事業費を負担して整備するものです。安全祈願祭には復興庁や県、市

の関係者などおよそ50人が出席し工事の安全を祈りました。水門の長さは211メートル、高さ12、5メートル。消防署や各詰め所からの遠隔操作ができ、停電時の電力の供給機能も備えるなど、人命を最優先に万が一の際には確実に水門を閉める事ができるということです。今月中旬には気仙川をせき止めて本格的な工事が始まり、4年後の平成29年の完成を目指します。(6/4 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122